

安全で住みよい

まちづくり

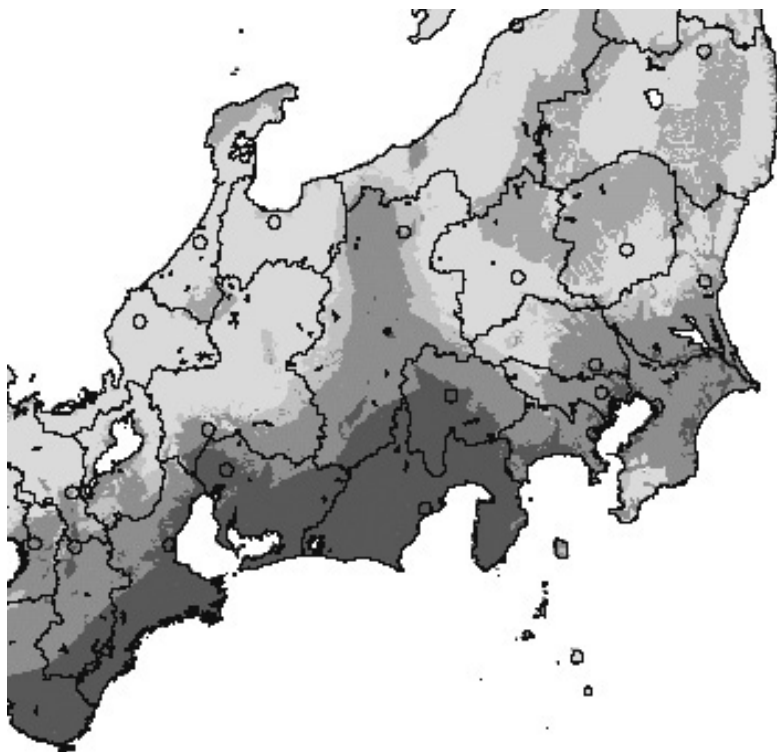
ニュース

防災交通課
(内208)

防災への意識改革 23

三十年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率

文部科学省・地震調査研究推進本部地震調査委員会から公表された「地震動予測地図」



確率	
高い	26%以上*
やや高い	6%~26%
	3%~6%
	0.1%~3%
	0.1%未満

図は今年三月に公表された「地震動予測地図」です。この地方が今後三十年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率は最高ランクの二十六パーセント以上と表記されました。「震度6弱以上」と「確率二十六パーセント以上」とはどのような意味を持つのでしょうか。

「震度6弱以上」とは

- 震度6弱以上とはどのような揺れでしょうか
- 人が立っていることが困難。
- 固定していない重い家具の多くが移動、転倒。
- 開かなくなるドアが多い。
- かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、散乱。
- ライフラインの供給が停止。
- 地割れ・山崩れなどの発生。

このように人的、物的にも甚大な被害が予想されます。

「確率二十六パーセント以上」とはほかの危険との確率を比べてみましょう。

今後三十年で遭遇する確率

- ・ 交通事故で死亡 0・2%
- ・ 大雨で罹災 0・5%
- ・ 火災で罹災 1・9%
- ・ 空き巣被害に遭遇 3・4%
- ・ ガンで死亡 6・8%
- ・ 交通事故で負傷 24%

この結果、交通事故に遭い負傷するよりも高い確率となります。また、海溝型地震の今後三十年発生確率は、東海地震(M8程度)八十六パーセント、東南海地震(M8・1前後)六十パーセントのように高い数値が示されています。

身近な「防災井戸端会議」を

この発表された資料は、防災対策の緊急度を判断する基礎資料になります。家庭で、友人同士で、近所で「防災」の話題を盛り込んだ身近な「防災井戸端会議」を通じた意識啓発から始まるのが大切です。

家族の負傷を少しでも減らす「家具の転倒防止」や家族の安全のための「家屋の耐震診断・耐震改修」を実施することは必ず減災につながります。

防災交通課では、趣味のサークルや近所の集まりなど少人数の集いにも、「出張防災講座」を行います。気軽に問い合わせてください。